

情勢報告（平成28年5月分）

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

佐川町の「お山の茶明郷園」が城西館で紅茶のお披露目会を開催



紅茶のテイステイング(上)、
銀不老ロールとの紅茶セット(下)

4月22日、佐川町の「お山の茶明郷園」が城西館で「幻の紅茶を愉しむ会」を開催し、19名が参加しました。これは県の6次産業化推進事業により同園製紅茶が、城西館で利用・販売され始めたお披露目会となります。当日は、澤村代表から紅茶を楽しんでほしいとの挨拶があり、国内産や外国産有名紅茶との飲み比べ、人気投票などを行いました。参加者からは「明郷園の紅茶はおいしかった。外国産有名紅茶にも負けていない」との感想があり、紅茶を飲み慣れた参加者も満足していました。

普及所では、地域の農産物の利用、加工品等の開発・流通を支援し、地域での6次産業化を推進していきます。

グリーン・ティー・ツーリズムによる中山間活性化



手摘みし、炒られた茶葉を
手もみする参加者

仁淀川町の秋葉の里集落営農組合の組合員を中心に、昨年に続き5月15日に別枝地区で茶摘み・製茶体験ツアーが開催され、36名が参加しました。参加者は、茶葉を一心三葉で手摘み後、釜炒り、手もみ作業など釜炒り茶の製造工程を体験しました。また、秋葉生活改善グループによる山菜料理や同町特産の「炒りもち」の接待もありました。主催者からは「この別枝地区は過疎が進み、どんどん人数が少なくなっている。このような茶摘みツアーを行い、地区の活性化を図っている。今後も、この別枝地区を応援してほしい。」との挨拶がありました。

普及所は、参加者への茶葉の摘み方や製茶方法の指導、茶に関する質問への説明などツアーの円滑な進行に協力するとともに、集落営農活動を支援し、中山間地の活性化を図っていきます。

次世代型ハウストマト栽培に新しい技術の導入を考える



新しい技術の説明を熱心
にきく参加者

当普及所管内では、次世代型ハウスの導入や複合経営拠点について検討されています。5月16日にはトマトハウスの環境制御技術の一つとして、省エネ技術に関する、情報収集および検討会を開催しました。生産者や役場、JA等が参加し、投資効果を上回るメリットがあるのか否か等、多くの質問・検討がされました。

普及所では農家所得が向上する技術の導入に向けて、新技術に関する情報の収集や普及を通じて支援していきます。

ニラ産地の維持・拡大に繋がる、そぐりセンター設立に向けて



調製作業を見学中

J Aコスモスニラ生産部では、そぐり手（出荷調製作業員）不足を解消するため、機械化による「J Aそぐりセンター」の設立を検討しています。

4月26日には、生産者や関係機関等21名がJ A高知はた佐賀支所集出荷場を視察調査しました。稼働状況や運営上の注意点について説明を受け、生産者からは雇用や経費負担、出荷体制等に関する質問が活発に出了ました。5月初旬の定例会での視察報告と意見交換から、品質向上や計画出荷など、安定的な稼働のための課題が明らかとなりました。

普及所では、処理能力の試算や機械化に合った品質、栽培管理等の情報提供を行っていきます。